

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらの木		
事業所名	NPOグループホーム すずらの木(1階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437番地1		
自己評価作成日	令和6年9月18日	評価結果市町村受理日	令和7年7月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ijyosyoCd=2172800290-00&ServiceCd=3204&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和6年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念である「尊厳を守ること」を念頭に置き、毎日のケアに取り組んでいます。コロナの影響で、以前のような活動はできていませんが、外部の方と触れ合える機会は増えており、外に出掛けることもできるようになってきました。利用者様が季節を感じたり楽しみごとが増えるように、様々なイベントを企画し楽しんでいただいています。なるべく以前のように食事作りをお願いしたり、ちょっとした空き時間に気分転換もかねて散歩にお連れするなど、できる限りの介護に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、田園風景が広がる静かな住宅地に位置しており、周囲を見渡せば緑豊かな山々が眺望でき、近くには飛騨川のせせらぎが聞こえる等、四季の自然を感じ取ることができる。建物は和の趣がある2階建てで、室内は木材を贅沢に使い、家庭的なぬくもりのある設えとなっている。ホームでは、理念にも掲げている「その人らしく生きる環境づくり」に取り組み、利用者の主体的な生活を支援している。利用者一人ひとりに担当職員が付き、利用者との日常的なコミュニケーションを通じて、意向や希望を親身に聞き取り、支援につなげ、さらに、家族とも信頼関係を築いている。また、花見ドライブや買い物、外食、落語のボランティア、家族との外出等、コロナ禍で自粛していた活動が徐々に再開している。地域との関係では、そのつながりを大切にしており、近隣の方々から収穫野菜をいただいたり、こども園の子どもたちの来訪、お祭りや獅子舞、伝統行事での交流を通じて、地域との関係を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:8,9)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある			<input type="radio"/>	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に付く場所に理念が掲示されており、常に目にすることで自分の支援が理念に沿っているか、正しいかと考えながら行動している。皆が同じ思いでいるのか確かめる機会はない。	「尊厳を守り、最期までその人らしく生きる環境を創る」という理念を掲げ、ホームの廊下に掲示し、パンフレットに明記している。利用者一人ひとりの担当者を中心に、理念を踏まえ、利用者の安心・安全な生活を支えるべく、支援の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方から野菜を分けていただくこともある。コロナ禍で交流の機会が減っていたが、地域の祭りの時には獅子の角付けに来てもらったり、ひな祭りで保育園招待されるなど、少しずつ交流が増えている。	天候の良い時は散策し、近隣の方々と挨拶を交わしたり、とうもろこしやレタス、さつま芋等の旬な野菜を分けてもらったりしている。地域の祭りや近くの園の子どもたちとの交流があり、また、落語のボランティアも受け入れている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、区の役員の皆様にホームの現状を報告している。災害の際には助け合う方向で話ができている。	運営推進会議には、市担当者や区長、副区長、民生委員等の出席があり、ホームの運営状況(利用者情報や行事、ヒヤリハット・事故等)を報告するとともに、意見交換を行っている。とりわけ災害に関しては、地域住民と連携を深めている。利用者家族には、会議への参加依頼や議事録等を郵送している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方には日頃からご指導ご協力をいただいている。運営推進会議に参加していただいております。事業所の現状を把握し、ご助言やアドバイス等をいただいている。	市担当者は、運営推進会議にも参加し、ホーム運営状況について理解してもらっている。また、利用相談や研修等の情報提供を得たり、相談事への助言をもらう等、日頃より顔の見える関係となっている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は人の出入りがあればセンサーで分かるようになっており、昼間は施錠をしていない。どんな小さなことでも拘束になっていないかと気にかけて支援している。勉強会でもっとしっかり学びたい。	玄関は、防犯上、夜間は施錠しているが、センサーを設置しており、昼間は施錠はしていない。外出する利用者には、すぐに対応できる体制となっている。日頃の対応が、身体拘束につながっていないか申し送りやカンファレンスで再確認をしている。今後、アンガーマネジメントを学んでいく予定がある。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の関わりの中で身体にあざがないか等の観察を行っている。何かあった時などカンファや申し送りノートなどで情報を共有している。言葉による虐待(言葉の強さ)にも注意している。	食後、トイレで利用者が席から立ちとうとするとき等、咄嗟に方言交じりで「ちょっと待って」と言ってしまう場面があるので、職員間で言葉遣いに気を配り、互いに注意し合い、適切なケア方法を伝え合うことで、虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に学ぶ機会を持たれていないが、必要性があると思われる方については活用できるように個々に知識を持つ必要がある。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にご家族様と面談し契約の説明を行っている。その時にご家族の疑問点やご要望などを聞き、ご理解・ご納得していただけるよう努めている。後日電話などでも対応を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に担当職員を決めていつでも気軽に連絡ができる。面会時や電話などで受け付けている。	運営に関する苦情はなく、意見箱の投函もない。利用者それぞれのケアに関して、直接、話を伺うことがあり、家族から寝たきりの方の服装に対する要望を受けて、部屋着に着替えていただいたり、利用者から「化粧水を自分で買いに行きたい」と言われ、担当職員と買い物に行く等、伺った意見に対応している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に面談したり、カンファレンスで意見や提案を聞く機会があるが、共有が不十分な面もある。	毎月1回、カンファレンスがあり、利用者に対する支援に関しても、担当者が中心になり、他職員の意見を聞きながら、業務の標準化、見直しを行っている。毎年、定期的に面談を行う他、職員の希望に応じ、随時面談を行い、職員の意見を運営に活かしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	有給休暇の消化、1カ月の休み日数など職員のワーク・ライフ・バランスの配慮に努めている。職員の状況把握に努めている。	勤務シフトに関しては、職員の健康状態や家庭の事情を聞き取り、勤務希望や希望休、有給休暇の取得等、個別に対応している。このような柔軟な対応を行うことで、ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりに努めており、職員エンゲージメント向上につながっている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会はあるが、常勤の人数が少なく、時間の確保ができない状況にある。ホーム内でも勉強会が行われていない。	人材確保が難しい中において、勤務体制を維持しながら、外部研修の受講が困難な状況にあるので、職員の休日も活用して受講している現状とことである。また、職員は中途入職者や未経験の入職が中心であるが、カンファレンスを通じた施設内研修はあるものの、以前実施していた勉強会による内部研修は未実施の状況である。	中途や未経験で入職する職員が多いとのことであるので、以前開催の勉強会の再開や、新入職員が現場をより学びやすいOJT指導等の内部研修体制づくりや、オンライン講座(eラーニング)の導入等、外部研修形態の拡充による研修機会創出に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会はほとんどない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の持っている力を活かしながら共同で作業を行うことで役に立てた、必要とされていると充実感を感じてもらえるよう心掛けている。関係を築けていると思込んでいるかもしれないので、もう一度見直したい。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との関わりの中から思いをくみ取り、意向の把握に努めている。困難な場合はアセスメントして、職員間で相談、検討している。	トイレや入浴、就寝介助等、マンツーマンで関わる時等、日常的なケアの中で、意識してコミュニケーションに心がけ、利用者の意向の聞き取りに努めている。また、訴えられない方には、質問方法を変える等して、表情や態度を観察しつつ、思いや意向の把握に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様のお気持ち、ご家族様の意向を把握した上でモニタリングを行い介護計画を作成している。さらにカンファレンスで職員の意見や提案を聞き、現状に即した介護計画となるよう努めている。	担当職員が利用者の代弁者となり、家族に現状報告をするとともに意向を確認しつつ、モニタリングを行っている。医師の意見を踏まえ、カンファレンスの中で、ケアの実践状況の振り返りと課題を検討し、計画の見直しを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録、業務申し送りノート、夜勤ノートなどを通じ、情報を共有し、毎日の支援に役立てたり、介護計画の見直しに活かしている。職員の意識や視点の違いがあるので統一していくことが必要。	支援記録や業務日誌、夜勤ノート等の記録を記入し、職員間で情報共有を図っている。職員個々の気づきが、支援や介護計画の見直しに活かされている。一方で、書類が多く、複雑になり、情報量が増えることで共通理解のしづらさにつながるように思われる。	ホーム全体で、各種記録の目的を点検・再確認することで、各種記録の体系的な整理に向けた取り組み期待したい。また、記録形式について、記述式に加えて選択・チェック方式も取り入れる等、効率化に向けた取り組みにも期待したい。
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や送迎、物品の購入などできる範囲ではあるが、利用者様やご家族様からの依頼については、できるだけご希望に沿うように検討、実行している。	利用者のニーズオリエンテッドな観点から、多様な支援に努めている。化粧水や歯磨き粉等、日用品は必要な時に買い物に行き、心配や不安感を与えないよう対応している。また、家族の要望に応じて、買い物や病院受診の付き添いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少しずつではあるが、落語ボランティアの方の訪問や、イベントで外出することが増えてきた。訪問美容師の方に来ていただいたり、地域の方々の力を借りながら豊かな生活が送れるよう取り組んでいる。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの近くにかかりつけ医院があり、しっかりコミュニケーションを取りながら関係作りに努めており、適切な医療を受けられている。	近隣にかかりつけ医がいるため、医療機関との連携は密に行われている。また、利用者や家族の要望に応じ、他科受診の付き添いも行っている。家族が付き添う場合には、普段の様子や変化を記した書面を医療機関に渡す等して、適切な医療を受けられるように支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護サマリーにより利用者様の普段の様子や関わり工夫を詳しくお伝えしている。退院時も入院先より情報提供をいただき、受け入れの準備を行っている。	入院時は、医療機関へ介護サマリーを情報提供している。退院許可時は、管理者が調査に出向き、ホームの受け入れ準備を行っている。身体の重度化等で受け入れが難しい場合は、医療機関のソーシャルワーカーと連携しながら、適切な受け入れ先を検討している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でご家族様と、ご家族の希望やホームでできる事を話し合って意思確認を行っている。ご家族、医師、ホームで書類を交わし同意を得ている。穏やかな最期を迎えられるよう全員で支援している。	重度化した場合には、主治医から家族への説明があるとともに、利用者・家族と話し合い、終末期のあり方や看取りケアについての意向を確認している。利用者・家族の希望に沿った看取りケアが実施されており、医療機関の連携のもと、職員チームで、安心した最期を迎えられるよう支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDが設置されており、使用方法を学んでいるが、冷静に対応できるか自信がない。実践力を身につけるため定期的に訓練が行えるといい。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。非常時用の連絡網もあり、非常食や水・ランタン等の備えもある。地域との協力体制もできてきており、今年度初めて地域の方と防災訓練を行う予定であったが、台風で中止となった。	訓練は、定期的に利用者の参加のもとに実施されている。また、運営推進会議を通して、災害時の応援要請、対応方法を確認し、地域との協力体制を整えている。非常用発電機、非常食、必要物品を備え、避難場所に緊急連絡網や避難者の確認表を掲示する等して、職員間で防災への意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護をしているのではなく、人生の一部に関わらせていただいているという気持ちで支援している。人格を把握し、常に考えながら関わっているが、やっている「つもり」になっていないか振り返るようにしたい。	排泄介助の際は、立ち上がりのタイミングでさりげなく声かけする等、羞恥心に配慮した支援を行っている。入浴時の意向を確認し、他の日程での入浴や同性介助、夜間の入浴等、利用者の気持ちや思いを確認しながら、柔軟な支援を行っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表出しやすい雰囲気作りを心掛けている。小さなことでも本人に決めていただけるような言葉かけを行っている。1対1の関わりを大切に本人の思いを聞き出すよう働きかけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはだいたい決まっているが、絶対的なものではなく、柔軟に支援している。職員の都合に合わせていただくことも多々ある。自分の気持ちを表出できない方に対してもっとしっかり見極めていくことが必要である。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの得意な事を活かしながら、利用者様と野菜の皮むきや後片付けなど一緒に行っている。おはぎ、朴葉寿司など季節の物を楽しみながら皆で作っている。会話を楽しみながら一緒に食事を摂っている。	料理が得意な方には野菜の皮むきや下準備、後片付けを一緒に行う等、役割を担っていただくことを大切にしている。また、6月には朴葉寿司、お彼岸はおはぎを一緒に作り、季節を感じてもらっている。さらに、職員も同じテーブルで食事を共にする等、食事が楽しみなものになるよう雰囲気づくりをしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士などの配置はないが、一人ひとりに合わせて食べ物の形状を整え、少しでも安全に多く食べてもらえるよう工夫している。時間を決めてこまめな水分補給の支援を行っている。食事量をチェックして体調管理に活かしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員ではないが食後歯磨きをしている。利用者様の力に応じて口腔ケアを行っているが、自立している方へのケアが不十分だと感じる。歯科医の往診や、歯科衛生士による口腔ケアも受けることができる。	日々、利用者の口腔ケアを行い、必要な場合には訪問歯科で適切な治療を受けることができるよう努めている。歯科衛生士からケア方法のアドバイスを受け、職員間で情報を共有し、口腔内の清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄できるよう、排泄表を利用し、時間を決めてトイレ誘導を行っている。声掛けの仕方もさり気なくお誘いするようにしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	3日に1回入浴日を設けている。拒否のある方には、無理強いにならないよう注意し、タイミングを見計らったり時間をおいて声掛けを行っている。利用者様の好きな音楽を流したり工夫している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体力やその日の体調などをみて、休息の促しを行っている。部屋の明るさや温度に気を付け、清潔な寝具など気持ちよく眠れるよう支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、容量など理解し、症状の変化に注意して確認に努めている。確実に服薬してもらうため薬袋に日にちを記入している。服薬時は名前を確認し飲み終えるまで見届けている。服薬チェック表に記入し確認している。	調剤薬局の薬剤師が薬を届けてくれたり、内容についてホームから相談したりする等、連携が取れている。錠剤が飲みづらい場合は粉末へ変更したり、ゼリーで内服できるよう、状態に合わせた服薬支援を行っている。内服までのチェックを繰り返し行い、誤薬の防止に努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や楽しみごとをケアプランに取り入れ活躍できる場を設けている。日常的に、好きな事、得意な事を取り入れ気分転換をしていただいている(散歩、日光浴、塗り絵、花の水替え、プランターで野菜作りなど)。	センター方式シートを使い、家族からの情報を得て、利用者の好きなことや以前の生活状況を把握し、支援につなげている。野菜を育てることが好きな人には一緒にプランターで野菜を作る等、楽しみなことが継続できるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではないが、流行することもあるため、気軽に外出ができる状況ではないが、散歩、ドライブ、外で行うイベントなど少しずつできるようになってきた。買い物など個人的な外出も行っている。	コロナ5類移行後も未だ影響下にあるので、感染症に留意しながら、外出支援を行っている。近隣散策に加えて、ファミリーレストランでの外食や地蔵尊へのお参りに出かける等、少しずつ支援の拡充に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方が多いため、お財布を事務所で預かり希望に応じて買い物支援をしているが、今はお金を使う機会があまりない。支払いのことで心配される方に対しては安心していただけるような声掛けに努めている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご家族様の希望時間を事前にお聞きして通話できるようにしている。手紙を書きたい方には葉書や切手を準備している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、光、音の大きさ、換気や空調にも気を配り快適に過ごしていただけるようにしている。季節に合った飾りつけや、花を飾り楽しんでいただいている。	玄関スロープは、洗い出し仕上げが施され、リビングや廊下も絨毯を敷き、滑りにくく安全に配慮している。リビング兼食堂には、畳コーナーがあり、利用者が落ち着いて過ごせる家庭的な空間となっている。また、廊下やリビングには、季節の作品や花が飾ってあり、居心地の良い空間が感じられる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつ誰でも使用できるように廊下に椅子やソファを置き、居場所作りを行っている。中庭にも椅子が用意してある。横になれるように畳の間があり、座布団や掛布団も常備している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を持ち込んでいただき、ご本人が安心して生活していただけるよう努めている。家具の配置を使いやすいように考えたり家族の写真などを飾り、居心地がよく過ごせる場所となっている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下になるべく物を置かないよう気を付けている。リビング入口の提灯、トイレの表示、居室の名札など場所がわかりやすいように工夫している。安全に歩行していただけるように手すりも設置してある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらの木		
事業所名	NPOグループホーム すずらの木(2階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437番地1		
自己評価作成日	令和6年9月18日	評価結果市町村受理日	令和7年7月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172800290-00&ServiceCd=3204&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和6年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念である「尊厳を守ること」を念頭に置き、毎日のケアに取り組んでいます。コロナの影響で、以前のような活動はできていませんが、外部の方と触れ合える機会は増えており、外に出掛けることもできるようになってきました。利用者様が季節を感じたり楽しみごとが増えるように、様々なイベントを企画し楽しんでいただいています。なるべく以前のように食事作りをお願いしたり、ちょっとした空き時間に気分転換もかねて散歩にお連れするなど、できる限りの介護に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や廊下など職員の目に入る場所に理念が掲示されており、意識づけができています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校やこども園との交流があり、行事に参加したり訪問し合っている。地域のお祭りの時には獅子舞が来て下さっている。区の防災訓練に参加する機会も持てた。近所の方から野菜をいただくこともある。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行っているが、職員への報告が不十分であり、活かさきれていない。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を行うようになったことで、以前よりもホームのことを知っていただくことができ、具体的な助言などをいただいている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が少ない時や夜間などは安全のため玄関を施錠している。身体的な拘束はないが利用者様が立たれた際に「座ってください」という言葉を聞くことがある。職員の拘束に対する意識が自分も含め薄いと思う。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が少ない時や夜間などは安全のため玄関を施錠している。身体的な拘束はないが利用者様が立たれた際に「座ってください」という言葉を聞くことがある。職員の拘束に対する意識が自分も含め薄いと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前制度を利用してみえる利用者様がみえたが、現在はおらず、知識不足などがあるので、勉強する機会があるとよい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご家族様と面談し、入所に関する説明やご家族のお気持ちや疑問点をお聞きし、ご理解・ご納得いただけるよう努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の際には、ご家族様と面談し、入所に関する説明やご家族のお気持ちや疑問点をお聞きし、ご理解・ご納得いただけるよう努めている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの時や日常的に意見や提案を聞く機会がある。出来る限り反映させている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員の体調、家庭状況などに合わせて勤務を組むように努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受ける機会はなく、職員を育てる仕組みは現在はない。発展していく傾向が見られない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会はなく、ネットワーク作りもなされていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、活動や作業を行うことで信頼関係を築いている。本人のやりたいという気持ちを大切にすることを心掛けている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人の希望や思いを傾聴し意向を把握している。困難な場合は本人本位に検討し、職員間でも意見を出し合っている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様にご希望や思いを聞きケアプランを作成し、カンファレンスで意見を出し合い介護計画を作成している。ご家族への説明と確認をより丁寧に行ってはどうか。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務申し送りノート、夜勤ノート、介護経過記録に日々の様子を記録することで情報の共有や実践がされている。介護計画の見直しに活かしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添いや送迎、個人的な外出などできる限りの支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや、学校、こども園との交流を大切にしている。落語の方が来て下さることもある。訪問美容師のサービスも利用している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得が得られたかかりつけ医に定期的に診ていただいている。歯科、マッサージ、鍼灸の往診も受けている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は介護サマリーや看護サマリーで情報提供を行っている。退院が決まれば、事前にご本人の状態を教えていただいたり退院後の生活についてアドバイスをいただいている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を話し合いの場を設け、ご家族、医師、ホームで書類を交わし確認している。それを踏まえてホームでどういう支援をしていくか、職員での話し合い、カンファが必要だと思う。入所時にホームでできることと、ご家族の意向を確認している。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すぐに体が動かないと思われるため、実践力を向上する努力が必要である。AEDの訓練など定期的に行ってほしい。職員も勉強会などを通じ、医療的な知識を身に付けていきたい。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署のご協力のもと年に2回避難訓練を行っている。水や少量品などの備蓄も常に行っている。運営推進会議を通じ、区の方価値とのつながりができ、災害時の協力について話し合えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	明るく笑顔でケアに当たるよう心掛けている。言動には注意し敬う気持ちを忘れないようにしているが、職員全員が気を付けているようには思えない。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中で選択できるようなお声がけをさせていただき、なるべくご自分で決定できるよう働きかけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者様のペースで生活を送っていただくようにしているが、職員の都合で寄り添えていない日が多い。認知症もあり、意思表示が難しい場合もあるので、体調をみながら支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器やお盆を一緒に拭いたり、食事の準備を手伝っていただいている。一緒に食事を摂り、メニューについて話をしたり、楽しみな気持ちを持っていただけるような関わりを心掛けている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事当番がバランスを考えたメニューで用意している。一人ひとりが食事量、水分摂取量を把握し、体調管理に努めている。一人ひとりに合わせた食事形態で提供している。水分も時間を決めてこまめに摂っていただいている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じ、一部介助や声掛けを行っている。出来ない方は介助している。必要な方は毎月歯科衛生士による往診で口腔ケアも受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要に応じて排泄チェック表を用い、トイレ誘導を行っている。自尊心を傷つけないよう気配りしながら介助している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は3日に1回のペースで設けてあるが、体調やタイミングに合わせて入浴していただいている。音楽を流したりお好きなシャンプーを使用したりと楽しい時間となるよう工夫している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温に気を付け、適切な寝具を用意し、安心して気持ちよく眠っていただけるよう支援している。天気の良い日には布団を干すようにしている。夜間も不安を取り除き安心していただけるような声掛けに努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行い、服薬時は名前を確認し見守りをして服薬チェック表に記入している。薬が変わった時にはその後の変化にも注意している。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った役割、楽しみを把握し、活動への参加を促している。(好きな食べ物や生け花、野菜の栽培、縫物、音楽など)毎月のイベントにも力を入れ季節に応じた行事を楽しんでいる。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染を心配し、できないこともあるが、短時間の散歩、ドライブに出かけている。ご家族と病院に行かれた帰りに食事をしてもらえることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は財布を事務所の金庫に預かり、買い物の際に、お渡しするなど一人ひとりに合わせて対応している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には事務所の電話を使っていただいている。手紙のやり取りもできるように準備はしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日掃除を行い綺麗な場所でも過ごしていただいている。季節の花を飾ったり、明るさや音、温度、換気など気を付けている。毎月季節に合った装飾を行っている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋で休んでいただいたり、窓際や廊下などお好きな場所で休んでいただけるよう椅子やソファを置いている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやベッドをご本人に合わせて安全で使いやすいように配置している。馴染みの物を置いたり、ホームのイベントで作った物、ご家族の写真を飾る等工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かりやすいようにしている。安全のため無駄な物を置かないようにしている。廊下に手すりを設置し、安全に歩行や移動ができるようにしている。		